

中央図書館はどこに置く？ — 建設当時の記録から —

1981(昭和56)年6月に竣工した現中央図書館は、東山キャンパス第2グリーンベルトの西端に、遠く豊田講堂と向い合うように建っています。ただ建設当時の記録をひもとくと、位置の決定は簡単ではなかったようです。

現中央図書館の新築は、1977年5月の附属図書館商議委員会における横越英一館長の提案をうけて本格的な検討が始まりましたが、当初からその建設位置は重要な問題の1つとして認識されていました。

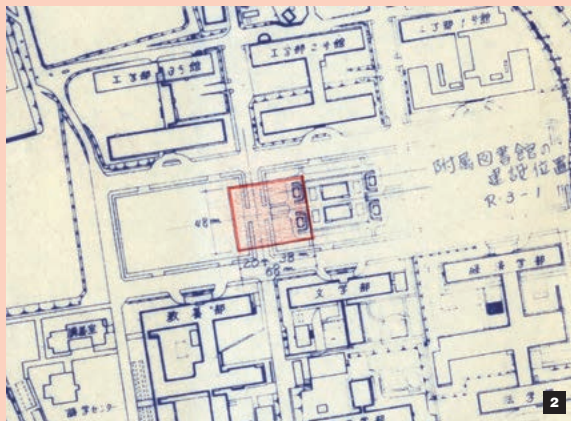
同年9月、商議員会は基本方針を各部局に提示して意見を求めましたが、建設位置については「できるだけキャン

パスの中央に持ってくる必要がある。」と慎重な書き方をしていました。各部局の意見は、同じグリーンベルト(以下GB)でも教養部の前、文学部の前、経済学部の前、豊田講堂の前など様々で、当時の中央館であった古川図書館(現博物館)の隣という意見も有力でした。

同年12月には、学長、事務局長、学生部長、各部長等からなる整備委員会に提議されました。その際に横越館長は、①第2GBと第3GBの間、②第1GBと第2GBの間、③古川図書館の横、の3案を検討したが、「豊田講堂と対称の位置」が大学のシンボリック性格を持つ図書館の位置として適当であること、また教養部改革が実現した際の拡張用地が第3GBの西側に想定されているとして、①が有力である旨を述べました。

しかし、GBは名大の「顔」であるがゆえに建物を設置するのは好ましくないなどの意見も出てまともらず、小委員会を置いて検討したものの、①への反対意見は根強かったようです。結局、概算要求には①が明記されましたが、正式決定には至りませんでした。

①が整備委員会で承認され、評議会で決定をみたのは、概算要求が一部認められて新図書館の建設が決定した後、1979年2月になってからです。設計が行われ、新築工事が着工されたのは1980年3月でした。



- 1 1977年頃の東山キャンパス全景。
- 2 建設位置を最終決定した評議会(1979年2月20日)の配布資料より。既存の図面に新図書館の位置(将来の増築予定を見込んだもの)が赤で書き込まれている。新図書館の建設に伴い、第2GBと第3GBの境目の道路が西に付け替えられた。その結果、第3GBはやや縮小されることになった。
- 3 第2GBの中央図書館前の景観は、「東海国立大学機構プラットフォーム(仮称)」の新館で大きく変わろうとしている(写真は2024年2月7日、中央図書館3階から撮影)。

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に!



■ 在学時の配布物

(学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…)

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

(各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…)

■ 校費による印刷物・刊行物

(冊子、パンフレット、ポスター…)

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集… など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046

Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp